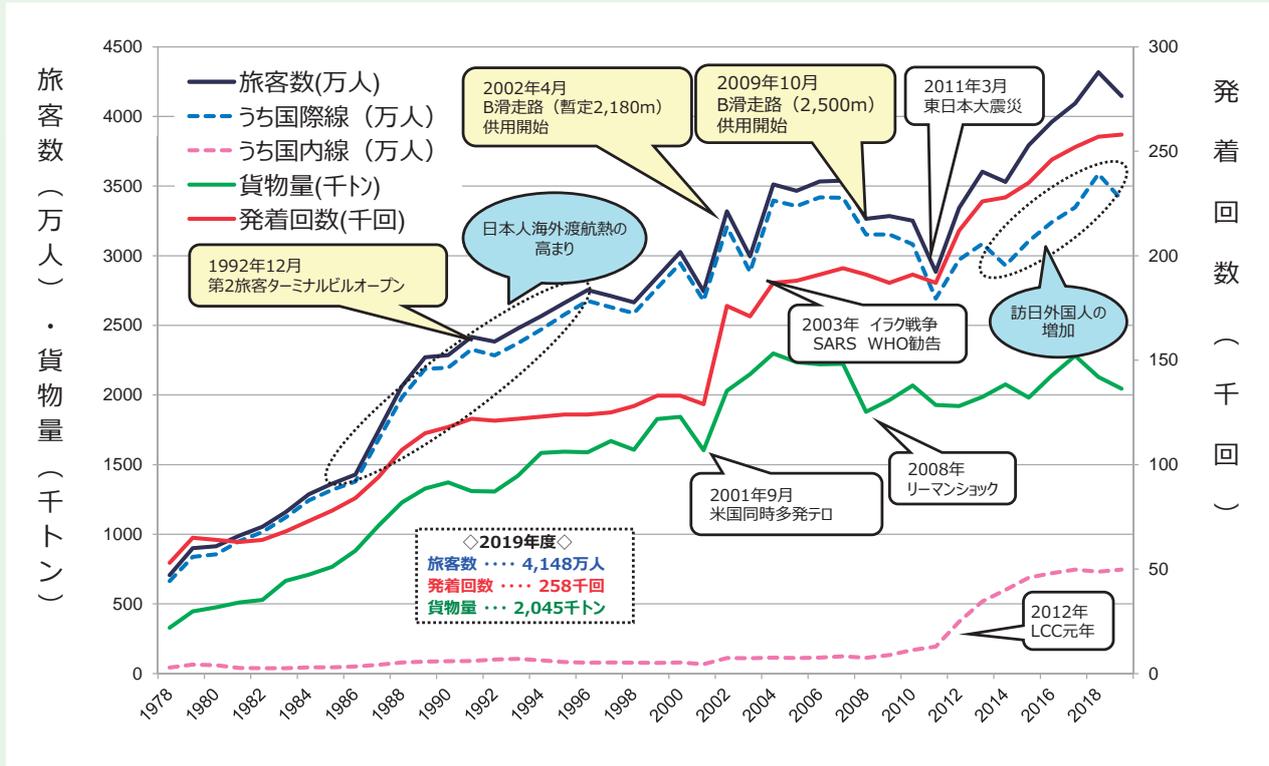


成田空港の成長と現状



(資料提供：成田国際空港(株))

開港から42年を迎えた成田空港は、1978年5月の開港式典で福永運輸大臣が「難産の子は健やかに育つ」と祝辞の中で表現されたとおり、現在では日本の表玄関として、国際拠点空港として、海外17都市、国内23都市(2020年2月3日時点)との航空ネットワークを結び、累計の航空旅客数は2019年11月に11億人を達成するとともに、2018年にはショッピングセンターとして日本一の売上高を記録するなど、旅行者をはじめ多くの方に利用されています。

このようなことから、町の北側に位置する成田空港は、当町を含む周辺地域にとって、雇用創出による定住の促進や交通アクセス等利便性の向上など、現在では、『空港』という経済基盤を生かし、地域経済・地域振興の大きな柱の一つとなっています。

今年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、国際線は出入国制限等により、国内線は政府の緊急事態宣言の影響等により旅客便発着回数、旅客数とも大幅減少となっており、4月12日から7月22日まではB滑走路を一時閉鎖、また、ターミナルの一部を閉鎖するなど、空港開港以来最も厳



写真提供：成田国際空港(株)

しい状況が続いています。

新型コロナウイルス影響前の水準まで回復するには相当程度の期間がかかるかとされておりますが、国際航空輸送協会(IATA)によると航空旅客需要の回復は、国内線は2023年、国際線は2024年までかかるとされています。

航空需要が回復した際は、『日本と世界、街、人、モノ、想い、一つなく』成田空港。』として、経済復活の基盤としての役割がますます重要となります。

成田空港の更なる機能強化は、中長期的な航空需要に対応するため、C滑走路の増設及びB滑走路の延伸など2028年度末の完成に向けて、事業が進められています。